

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 回 (仮称) 新・都市農業振興ビジョン検討委員会				
事務局 (担当課)		農政課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 3 (直通)				
開催日時		平成 2 6 年 7 月 2 3 日 (水) 午前 1 0 時 1 0 分 ~ 午後 1 2 時				
開催場所		相模原市立産業会館 4 階国際商談室				
出席者	委員	1 1 人 (別紙のとおり)				
	その他	-				
	事務局	8 人 (環境経済局長 他 7 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 (仮称) 新・都市農業振興ビジョン検討委員会規則について 3 委員長・副委員長選出 4 諮問 5 議題 (1) 相模原市審議会等公開基準について (2) (仮称) 新・都市農業振興ビジョンの概要について (3) 審議スケジュール (案) について (4) 相模原市の農業の概要について (5) 相模原市における農業支援の取組みについて 6 その他 7 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

事務局の進行により開会し、委員名簿順に自己紹介された。

2 (仮称)新・都市農業振興ビジョン検討委員会規則について

事務局から本検討委員会設置の趣旨等について説明を行った。

3 委員長・副委員長選出

事務局から(仮称)新・都市農業振興ビジョン検討委員会規則第5条第2項により委員の互選により選出する旨を説明した。

互選により、委員長に麻布大学獣医学部教授の大木茂委員を、副委員長に相模原市農業協同組合理事の小林シゲ子委員を選出し、大木委員長、小林副委員長からそれぞれあいさつをいただいた。

4 諮問

(仮称)新・都市農業振興ビジョンの策定に関する事項について、市長代理として、環境経済局長より委員長へ諮問書を手渡した。

5 議題(は委員の発言、 は事務局の発言)

大木委員長の進行により議事に入った。

(1) 相模原市審議会等公開基準について

事務局から相模原市審議会等公開基準について説明を行った。今後、この公開基準に従って検討委員会を運営していくことについて了承を得た。

なお、傍聴人の確認を行ったところ、傍聴者が2名いたため、入室が承認された。

(2) (仮称)新・都市農業振興ビジョンの概要について

事務局から、本ビジョンの位置付け及び概要について説明を行った。

新・相模原市総合計画の成果指標において、どのように農業生産量を算出しているのか。

成果指標については、農業センサス・農業統計のデータを基に野菜や畜産物など、品目別に積み上げ、数値を算出している。

本ビジョンの位置付けに記載されている「(仮称)新・都市農業振興ビジョン」と「農業振興地域整備計画」の両方向の矢印はどのような意味か。

両計画は、密接に連携するという意味である。

本ビジョンで審議の対象とする「都市農業」の定義は、市街化区域のみならず、市全域で営まれる農業と考える。そのため、市内全域の農地分布等を網羅する地図やデータが必要と思われる。

神奈川県が定義する都市農業も農業振興地域を含めている。本ビジョンの検討上、土地利用が理解できるような資料が欲しい。

農地の現況がわかるような地図やデータを作成して提供したい。

旧市域で農業をしても、津久井地域の農業の実態がわからない。図面上の話だけでなく、現場を見た上で本検討委員会に臨みたい。

次の検討委員会で、津久井地域も含めて現地視察をする予定になっている。

(3) 審議スケジュール(案)について

事務局から、審議スケジュール(案)について説明を行った。

(議題(3)に関して質疑・意見なし)

(4) 相模原市の農業の概要について

事務局から、市内農業の概要及び「市政モニターアンケート」の結果など、市内農業の現状について説明を行った。

販売農家の中でもある程度の農業所得があり、今後も経営を拡大していくことをめざす農家を中心に、本ビジョンの審議の中で、支援策等を検討するべきではないか。

津久井地域は中山間地域であり小規模農家も多いなか、こうした経営体をさら

に活性化させる支援を行うべきではないか。

津久井地域では鳥獣による農作物被害が問題となっているが、被害を受けにくい花を栽培して直売所で販売している取組みもある。地域の実情に合った農業を展開していくべきだと思う。

(5) 相模原市における農業支援の取組みについて

事務局から、農業支援施策の現状等について説明を行った。

担い手が減少しているなか、耕作放棄地も減少しているのはなぜか。

新規就農者や農業への法人参入等により、農地の利用集積が進んでいる。また、農地の再生利用に取り組む「相模原市耕作放棄地対策協議会」を通じ、整備した農地を担い手に集積し、耕作放棄地の解消に取り組んでいる。

認定農業者は、60代・70代で約6割を占めている状況となっているが、実際には、後継者がいる例も多い。認定農業者は主に世帯主が認定を受ける状況となっており、後継者の状況も含めたデータが欲しい。

津久井地域では、特にサルの被害が大きい。山梨県や東京都では銃による殺処分をしている状況もある。

津久井地域においては、約400頭のサルが生息している。神奈川県では「第三次ニホンザル保護管理計画」に基づく規制があり、サルを銃により殺処分することはできない。

相模原市は、担い手の高齢化による担い手不足という厳しい状況もある一方、新規就農者が増えている状況もある。相模原市が消費地そのものであり、優位性を活かしたビジョンを策定することが必要である。そのなかで、農業の6次産業化の取組みが本ビジョンの1つの方向性となっていくと考えられるので、事例等の把握をすべきだと思う。

養鶏農家で6次産業化に取り組んでいる農家が多いと聞いているので、その状況も調べてほしい。

6次産業化を目指している中で、経営の難しさはあるものの、農家レストラン

や体験農園など、市民に心の豊かさをもたらす農業がこれからは必要となってゆくのではないか。

農作物の加工を始めるにあたっては、加工施設を作らなければならない。もっと農家が加工に取り組みやすくなるような助成制度があったほうがいいのでは。また、共同利用できる加工施設があればと感じている。今後、本検討委員会で議論してほしい。

6 その他

事務局から次回日程等に関する事務連絡を行った。

- ・ 農業関連施設等の現地視察
- ・ 平成26年8月12日(火) 午前9時30分～

7 閉会

第1回(仮称)新・都市農業振興ビジョン検討委員会委員名簿 (50音順・敬称略)

	所属団体等	氏名	備考	出欠席
1	相模原市認定農業者連絡会 副会長	天野 國彦		出席
2	公募委員	池田 珠三子		出席
3	麻布大学獣医学部 教授	大木 茂	委員長	出席
4	相模原市農業協同組合 理事	小俣 シゲ子	副委員長	出席
5	公募委員	上島 都子		出席
6	一般財団法人農村開発企画委員会 特任研究員	楠本 侑司		出席
7	株式会社藤野倶楽部 代表取締役	桑原 敏勝		出席
8	津久井郡農業協同組合 専務理事	坂間 陸二		出席
9	パルシステム生活協同組合連合会 産直開発課長	高橋 英明		出席
10	相模原市農業委員会 副会長	高橋 三行		出席
11	相模原市農業協同組合 常務理事	長谷川 辰夫		出席